

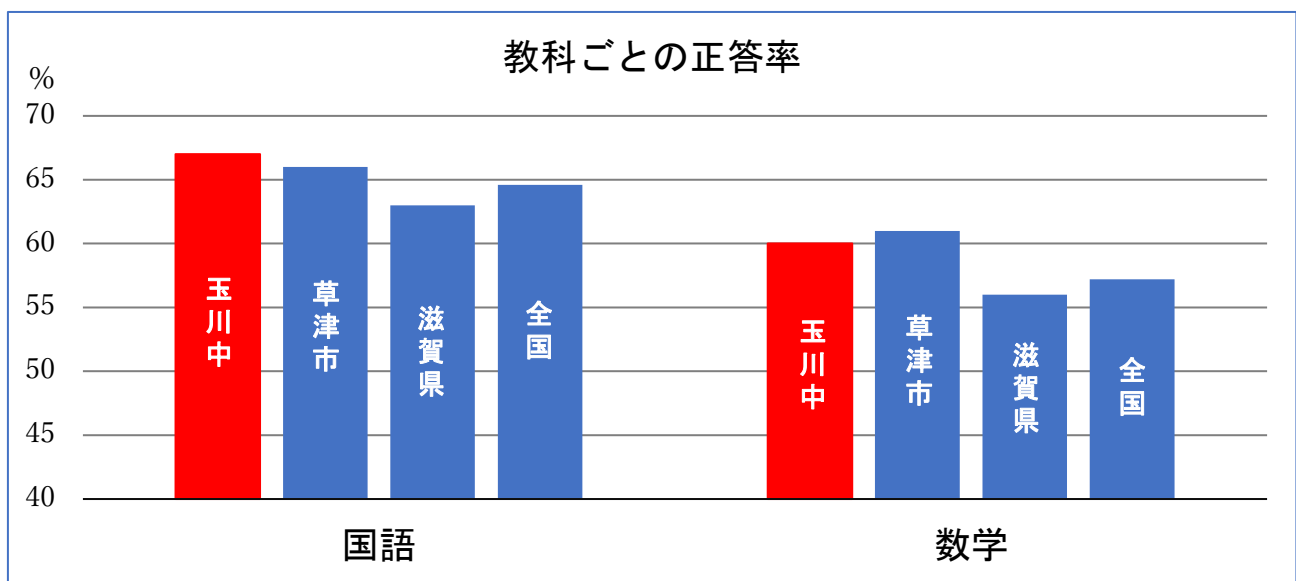
令和3年度全国学力・学習状況調査の結果

日時 令和3年5月27日

対象 本校3年生

内容 国語、数学、生徒質問紙調査

1. 各教科の結果



【国語】 本校の平均正答率は、草津市、滋賀県、全国の平均を上回りました。

○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「知識・理解・技能」のすべて領域で、全国平均を上回りました。特に「話すこと・聞くこと」に優れています。

△「読むこと」に少し弱さがあります。特に、終盤の問題での無解答率が高いことから、「読むこと」に時間がかかりすぎる傾向があります。

【数学】 本校の平均正答率は、滋賀県、全国の平均を上回りましたが、草津市の平均を下回りました。

○「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域で全国平均を上回りました。特に「数と式」で良い結果が出ています。

△「整式の加法と減法の計算ができる」「関数の意味を理解している」「錯角が等しくなるための2直線の位置関係がわかる」などの基礎的・基本的な問題の正答率が、全国平均よりも低くなりました。

2、生徒質問紙調査の結果

生活習慣、学習習慣、社会活動、授業に関すること、自分自身に関することなどの約70の項目の質問のうち、約8割の項目で全国平均を上回りました。

玉中生は、普段から規則正しく生活し、意欲的に学習に取り組み、自分や周り人を大切にし、挑戦する気持ちや達成感をもって生活していることがうかがえます。

課題としては、本や新聞を読む機会が少ないこと、ICT機器の活用が十分ではないことがあげられます。(ICT機器の活用は、全国平均を大きく上回っているものの、市内の学校と比較すると十分ではないという結果が出ています。) また、ゲームをするなどスマホに触れる時間が長いこと、自分の将来に夢や希望を持っている生徒がやや少ないことも課題です。

3、令和3年度後半の取り組み

これまでから行ってきた「授業での課題解決学習・グループ学習の取組」「生徒の『分からない』を大切にせる教育」「特色ある生徒会活動」「地域や地元企業・大学と連携した学習」を継続するとともに、次の5点について、令和3年度後半の重点として取り組んでいきます。

- ① 読書活動を推進するため、1・2年生を中心に「読書カード」の取り組みを強化します。また、各教科の学習の中で、「読む」機会を意識的に増やし、「読み解く力」の育成に努めます。
- ② 各教科の学習の中で、基礎的・基本的な内容の理解を徹底し、生徒の「分からない」に寄り添い、「誰一人取り残さない教育」の実現に努めます。
- ③ ICT機器の活用をさらに推進します。特に、友だちと意見を交換したり、発表して意見を共有したりする場面での、1人1台端末(タブレットPC)の活用を進めます。
- ④ キャリア教育の取り組みに工夫を加え、自分の将来に夢や希望を持つ人を育てます。
- ⑤ 生徒会を中心とした「スマホルール」の見直しに、学区内の小学校と連携して取り組みます。